

■【混線する無線機の実戦的な通信方法（訓練）について】

※中央分団では中継体制（水利部→火点部）ごとに、第1ライン、第2ラインと呼んでいます。

※配置の確認ですが、消防団現場指揮本部（境内前）には、秋山団長と及川副団がいて、各ラインの火点には副団長と分団長および部長がいる体としています。

第1ライン（2番→1番区域、全無線を21CH）安藤と越川は傍受し監視。1番火点付近の宮崎副団も21CHを傍受し本部1CHで及川副団へ状況報告

第2ライン（5番→4番区域、全無線を22CH）宇井と伊藤は傍受し監視。3番火点付近の湯浅副団も22CHを傍受し本部1CHで及川副団へ状況報告

第3ライン（1番→3番区域、全無線を22CH）越川と湯浅は傍受し監視。3番火点付近の湯浅副団も22CHを傍受し本部1CHで及川副団へ状況報告

第4ライン（6番区域、全無線を23CH）浅野と那智は傍受し監視。参道火点付近の大関副団も23CHを傍受し本部1CHで及川副団へ状況報告

実際の現場で大事なことは、団員が素早く安全に消火活動が出来る様に、団本部役員および分団長は団員のサポートに努めます。団本部や本署からの指示があった場合、団本部役員は各分団長へその指示を伝えます。部への直接の指示は分団長に任せます。

防災訓練では、こと細かな報告業務を各役員（部長・分団長）にやらせますが…私の経験（出動700回以上）から言わせて頂きますと、現場は水が出るまでが勝負であり、団員への指示が先、団本部とのやりとりは中々出来ません。

中央分団の中継訓練では、分団役員は訓練開始の合図と終了のみで全て部長に任せ、役員は傍受しているだけです。実際の現場を想定した訓練と考えた場合「報告」より「指示」をメインにした訓練をした方が良いですね。

例）第1ラインの場合、匠瑛二部と豊和二部が中継ラインを作る際、現場の安藤と越川、匠瑛・豊和分団長は団員の作業状況を監視（サポート）するだけで良い。

団本部（宮崎副団）からの指示は、必ず火点の豊和分団長に口頭で通達、豊和分団長が理解した上で部長へ指示。

また、中継作業中に何らかの問題（不具合）が起きた場合においても、各分団長から直接、宮崎副団へ口頭 or 無線21CHで報告をさせること。

中継体制が整ったら、火点側の豊和分団長から水利部署の匠瑛分団長へ無線21CHで放水開始の指示。

放水中止の場合は、宮崎副団が口頭で火点の豊和分団長に放水中止命令、豊和分団長は無線21CHにて匠瑛分団長へ放水中止の指示。

撤収指示も同様に、宮崎副団が口頭で火点の豊和分団長に撤収命令～豊和分団長が無線21CHにて匠瑛分団長へ撤収指示。

って感じがリアル訓練ですね。せつかくの訓練ですので、分団長と部長をメインでやらせるべきですね。

それと…実際の現場では水利部署と火点部署との連携（バランス）が一番大事で、円滑な消火活動を行うには各分団長の手腕（判断力）に掛っています。

※火点部署と水利部署では、必ず火点部署の方が早く準備が整い、水利側からの中継（送水）待ちとなります。

たぶん訓練では火点側の部はイライラしつつ～ぼおーと水を待っているだけでしょうけどね。（笑）

そういった経験もさせるべきですね。

ちなみに～私は今でも中継体制を早く作るための現場ではホース伸ばしの手伝いをしますよ。(笑)

あと～もう一つ！ 団員にとって大事なこと！

実際の災害現場には、団本部役員（幹部役員）は誰もいないと言うことを教えなくてははいけませんね。

現場では本署や事務局の指示を待つことになる。ってことを教えなくてははいけませんね。(笑)

最後に予想ですが…この様なリアル訓練をやらせようとする「これは中央分団だから出来るんだよ～」みたいなアホなことを言う輩がいます。自分達が団員に何にも教えず、団員達を見下した考えですよ。団員なんて全員素人ののにね(笑) まあ～団員のことなど何も考えてないアホな幹部役員が良く言うセリフです。

■【鶴野副分団長の銀ヘル（防護布？）を下さい。】

■【なかとうでの安藤くんからの質問について】

消防車両の停車位置についての云々？(笑)

それこそ700回の出動経験からいいますと、林野火災（狭い道）において、本署に進入路を封鎖されたことは数十回ありますよ。そのたびに反転し、数キロ離れた反対側から進入…また、本署が火点へと繋がる唯一の進入路に停車したため、消防団の車両が1台も近づけず…。当然、放水せず～ってことも数回ありますね。

ちなみに中央地区内の火災ではほとんどありません。

なぜなら各部が本署より先に現着しているのと、分団役員が部や本署よりも先に現着し本署を邪魔にならないところへ誘導～部の進入路確保！ 分団役員が責任をもって役目ははたしていますからね。(笑)

先日の越川運送や小高の火災なども、私→鶴野→本署の順で現着しています。

また、中央の団員には「本当の火事だったら行くよ」「誤報だろから行かない」なんて感覚の者もいません(笑)

そんな訳で、リアルな停車位置（配置）訓練としてやりたいのであれば、まずは団本部役員や地元分団役員の存在意味（役目と責任）を教えた上で始めるべきで、さらに後方部隊のための進入路保持？云々となると、出動報告からの訓練が必要です。

中央分団では団庫を出た時点で、無線機にて「〇部、出動」。また、現着するまでの間は随時状況報告「〇〇地点にて上昇黒煙確認」とか「〇部は火点の南側消火栓に着きます」と言った様な状況報告をしながら現場へ向かい、後方部隊もそれを聞きながら、自分たちが何処の部署に着くかを報告しますので、進入路の閉鎖などはありえませんね。当然、現着している分団役員がそれらを傍受した上での的確な指示も出していますからね。

それが答えです。(笑)

ちなみに実際に飯高寺で火事になったら～を想定しますと…本署は水利付近および消火栓に着きますので、匠瑳二部（防火水槽）もしくは中央一部（消火栓）に停車させますね。本署は絶対に消防団のことは考えませんよ。

さらに火点部署の消防車両も訓練の様に境内の中までは進入せず、庫裡前辺りに停車させるでしょうね。指揮車も来るしねえ～完全通行止め(笑) 従って、消防団が進入経路は～吉田一部の方からのみ？と予想します。

■【今年の中央分団の目標（室生分団長の年頭あいさつより）】

大規模な風水害や震災を想定した訓練を行うため、本署や事務局の方々にはいろいろとご指導とご協力をお願いしますとのことです。その他に普通救命講習の実施と大規模災害でのいろいろな場面でのトリアージ区分などもね
例：震災での火災は消すのか？それとも避難か？・災害活動はいつまでさせるのか？いつ休ませるのか？などなど…

■【中央4部消防車両の貸与式について】

4部より新旧の消防車両を2台並べて記念写真を撮りたいとのこと。後日正式に4部からの要望が出るかと…
余談ですが、現消防車が来た年に、私は4番員として県大会に出場しました。また、2002年には指揮者として県大会に出場した思い出がある消防車と最後の年の消防車ですので、私も記念に1枚撮りたいですね。

■【別件：歳末警戒の件】

団長の激励後の最右翼者の号令のかけ方を教えてあげた方が良いかと思えます。
激励後「団長に頭～中・なおれ」「整列休め」で幹部役員が撤収します。
その後の最右翼者の指揮を示してあげて下さい（中央へ移動し～別れまで）

あと、点検報告の文面もおかしいのでは？と、みんな思っていますよ。

「〇〇分団、分団長以下、〇名、歳末特別警戒 異常なし」って、まだ警戒など何もやっていないのに～と（笑）
歳末警戒の初日に出陣的な感じですので「歳末特別警戒を開始します」の方が良いかと思えます。
操法も「操法演技を開始します」ですから、言い易いのでは？

長々申し訳御座いません…

残り1年ですので、伝えたい気持ちで～説明が長たらしくなりますね。ご理解下さい…（笑）
散々能書きをたれてはみたものの、退団する私には改善結果の責任が取れません。あくまで参考として下さい。

中央分団では上記の件については既に改善済みで、私の役目も終わっていますので思い残すことは無いです。（笑）